

JSMO's Best of ASCO Conference 2016 見どころ

7月9日(土)

10:50-11:45 講師：横田 知哉（静岡県立静岡がんセンター）

頭頸部がん

頭頸部がん領域からは、局所進行例において最も大きなクリニカルクエスションの一つである

導入化学療法、開発がホットな免疫チェックポイント阻害剤、そして上咽頭癌についてディスカッションします。

6000 は導入化学療法 TPF 後のセツキシマブ+RT と、化学放射線療法を比較するランダム化試験（RCT）であり、導入化学療法の必要性を問う試験です。

6001 は導入化学療法後の至適照射レジメンとして、セツキシマブ+RT とシスプラチン+RT を比較する RCT です。

6007 は再発転移上咽頭癌において、FP 療法に対してゲムシタビン+シスプラチン（GC）療法の優越性が示され、標準治療が変わりそうです。今後我が国におけるゲムシタビン承認にむけた重要な報告だと思えます。

6009 は CheckMate 141 試験で、プラチナ不応転移再発例に対する Nivolumab の有効性が示されました。免疫チェックポイント阻害薬の開発の今後の展望についても議論できればと思います。

11:45-12:25 講師：中島 貴子（聖マリアンナ医科大学）

Patient and Survivor Care

“Collective wisdom. The future of patient-centered care and research”のテーマにふさわしく、PATIENT AND SURVIVOR CARE のセッションでは多くの有用なデータが発表されました。

BOA で取り上げるのは、

2つの大規模比較試験による副作用克服のためのポジティブデータ（#10000 神経障害、#10019 吐き気）、早期の緩和ケア介入により QOL は向上するか？という比較試験（#10003）です。

制癌治療においては標準治療がめまぐるしく変遷する中、多くの治療に共通する副作用や QOL を妨げる要因を一つずつ科学的手段により解決していくことの重要性を BOA で再確認していただくとともに、明日からの臨床現場にこれらのエビデンスをどう導入していくか、皆様にディスカッションできることを楽しみにしております。

13:55-14:35 講師：佐治 重衡（福島県立医科大学）

乳がん - Endocrine related therapy

乳癌術後ホルモン療法は5年から10年へと長期化の傾向にあります。しかし、アロマターゼ阻害薬(AI)を10年内服した場合の効果・副作用についてのデータはこれまでありませんでした。

ASCO2016 のプレナリーセッションに採択された、AI 10 年内服の意義を検証する第 III 相試験 MA17R をとりあげます。また注目される新規分子標的治療薬 CDK4/6 阻害薬 Palbociclib の第 III 相試験の結果も登場します。

抗 HER2 コンボ T-DM1 + Pertuzumab の術前化学療法(KRISTINE)、術後化学療法としての TC レジメとアンスラサイクリン/タキサンレジメを比較する ABC 試験、さらには IV 期乳癌において、まず原発乳房切除を行うことで予後が改善するかを検証したトルコの MF07-01 試験についてレビューしていきます。

乳癌領域は、今年も目の離せない話題がいっぱいです。

JSMO's Best of ASCO Conference 2016 見どころ

7月10日(日)

13:20-14:00 講師：丸山 大（国立がん研究センター中央病院）

血液がん - Lymphoma and Plasma Cell disorders

本年度の Best of ASCO in Japan のリンパ系腫瘍（リンパ腫・骨髄腫）関連では、以下のクリニカルクエスチョンを検証した3演題を取り上げます。

1. 未治療びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する、
治療初期のリツキシマブ強化療法とリツキシマブ維持療法は有用か？
2. 抗 CD38 モノクローナル抗体であるグラツムマブは、再発・治療抵抗性骨髄腫の標準治療である
ボルテゾミブ+デキサメサゾン療法への上乗せ効果があるか？
3. 未治療若年者骨髄腫において、初回治療からの自家移植は新規薬剤が登場した現在であっても
標準治療か？

いずれも現在および将来の診療に影響する重要なクリニカルクエスチョンです。

特に、演題2はプレナリーセッションにも選出された注目演題です。

是非みなさんと一緒に、それぞれの報告の意義と問題点とを議論したいと思います。

14:00-14:40 講師：軒原 浩（国立がん研究センター中央病院）

肺がん - Non-small Cell

肺がん領域からは CheckMate012 試験、J-ALEX 試験、LURET 試験の3演題を取り上げます。

ASCO2016 の肺がん領域における一番の話題は J-ALEX 試験であったと考えております。

J-ALEX 試験は ALK 融合遺伝子陽性の進行・再発非小細胞肺癌に対して ALK 阻害剤である
クリゾチニブとアレクチニブを比較した第Ⅲ相試験です。

その結果を発表する機会をいただき、新たな標準治療が確立したことを世界に発信することができました。

発表当日の独特な雰囲気の皆様にも感じていただき、J-ALEX 試験の意義を確認して頂きたいと考えております。

また、ALK、RET 融合遺伝子陽性肺がんの今後の治療及び展望について議論しましょう。

JSMO's Best of ASCO Conference 概要

日時：2016年7月9日(土)～10日(日)

会場：東京ビッグサイト 会議棟 7F「国際会議場」

参加申込受付：2016年6月23日(木)まで※

URL：<http://www.jsmo.or.jp/assembly/best2016/index.html>



※期間中に参加申込を頂いた方のみ、ご参加いただけます。当日の参加受付はございませんので、ご注意ください。